

ウォーホル 今度は3億円

鳥取県は21日、2025年春に開館予定の県立美術館（倉吉市）の目玉作品の一つとして、ポップアートの旗手とされるアンディ・ウォーホル（1928～87年）に関連した現代美術作品「ブリロの箱」シリーズ計5点を購入する方針を発表した。購入予定額は計約2億9145万円。県は6月にも、ウォーホルの代表作「キャンベルスープ缶」の立体作品を3390万円で購入すると決めており、同日の県議会総務教育常任委では、委員から「衝撃の値段」「高過ぎるベニヤ板」などと疑問の声が上がった。

（松本妙子）

ウォーホルは、マリリン・モンローのシルクスクリーン作品で知られる米国の

県美購入方針「ブリロの箱」5点 「高過ぎる」疑問の声も

画家。ブリロの箱は、スポンジブランドの包装箱を模して、木の板で制作された作品。64年に発表されてから芸術界に波紋を呼んだ伝説的なシリーズとなる。

購入予定の作品は、ウォーホル認知のもとで68年に制作された1点（6831万円）のほか、死後に回顧展のため作られた4点（各約5578万円）。



著名なアンディ・ウォーホルの「ブリロの箱」シリーズ5点。左上は1968年の作品＝21日、鳥取市の県立博物館

目指す姿、共有できているか

「キャンベルスープ缶」に続き、今回の「ブリロの箱」5点の購入予定金額には目を見張った。今のところ、合わせて3億円超え。美術品にはお金がかかると分かっているが、県民は美術に精通する人だけではない。県立美術館は何をコンセプトに据え、なぜその作品にこだわるのが見えないと、多額の税金投入に理解は得られないのではないかと。美術館の目指す姿は県民と共有できているか。他の美術館にない個性を出そうとする姿勢は買手が、くれぐれも背伸びをし過ぎ、県民を「置いてけぼり」にしないように。

（松本）

現在は、購入検討判断のために借り上げて県立博物館に保管中。同委で購入予定作品として報告した。県教委の美術館整備局の尾崎信一郎美術振興監は「現代アート、ポップカルチャーの美術史をつくった世界的作品。日本の他の美術館には所蔵されていない希少なもので、集客効果を期待する。キャンベルスープ缶と合わせてメインの一つに据え、美術館の存在感を示したい」と説明した。同委では、委員から「今後は、購入検討判断の後にもウォーホル作品を収集するののか」「県民の血税が使われている。展示の意義や美術的価値がきちんと県民に伝わるように」など意見が出たが、明確な反対の意思は示されなかった。尾崎美術振興監は「他にも現代美術やポップアートに関連した作品を収集していく。美術館のコンセプトや方向性、収集の脈絡が見えてくると思う」と述べ、理解を求めた。9月末までに正式な契約交渉に入る予定という。